

室蘭民報 MUROMIN

2018年(平成30年) 2月9日(金)

発行所：室蘭民報社
〒051-0015 室蘭市本町1丁目3-16
電話0143-22-5121・FAX0143-24-1337
©室蘭民報社 2018

編集局・報道/(0143)22-5123
営業局・営業/(0143)22-5122
ご購読・チラシの申し込み
販売局・販売/(0143)22-5121
チラシセンター/(0143)22-2454

ホームページ
<http://www.muromin.co.jp>

お膳料理
お弁当
オードブル
おもてなしの
お料理なら
桂
室蘭市茶津町12 ☎(0143)23-5403

■きょうの紙面■

朝食で早起き効果 15
室蘭工業大学(空閑良壽学長)の学生有志のボランティアが、同大で初めて実施した100円朝食の提供。他大では学生主体で

はあまり例がなく、同大の多くの学生が温かい朝食を食べ、講義に向かった。早起きした人も多く一定の成果があった。

ハトムギの産地化へ 3
伊達市の農家がハトムギの生産に取り組み、消費者の健康志向を追い風に産地化を目指している。

トヨタ労組は3千円 4
トヨタ自動車労働組合(6万8千人)は8日、2018年春闘でベースアップ(ベア)に相当する賃金改善分として月額3千円を要求すると正式に決めた。

「過労で事故死」和解 5
帰宅中に息子が自損事故で亡くなったのは過重労働が原因だとして、両親が損害賠償を求めた訴訟は8日、横浜地裁川崎支部で和解が成立した。

娘に迷惑掛けたくない 自分自身で入所決める

施設で迎える「最期」 看取り

西胆振管内の現在

～4～

「入所当初は、父をセントヒルズで看取ってもらったつもりはなかった。自分が…という思いでした。伊達市舟岡町のケアハウス「セントヒルズ」で2016年(平成28年)6月12日、89歳で亡くなった長岡巴さんの次女、大濱美智子さん(61)―神奈川県鎌倉市―は話す。

大濱さんは、現役の訪問看護師。病院勤務時代も含めて、多くの人の最期を看取り、また、それぞれの「残された時間の過ごし方」も見てきた。

●今後の過ごし方
セントヒルズに入所した15年4月当時の長岡さんは要支援2。「また、施設に入る状態ではなかった。大濱さんは、幾多の患者を見てきた「プロ」の目で、当時を振り返る。

独り暮らしの長岡さんは13年、膀胱がんも患った。がんは内視鏡手術で取ったが、「寝たきりになって世話をするのも介護だが、そうならないようにするの

た。既に大濱さんは仕事を辞め、父の介護に集中しようとした矢先だった。「もう知らない。勝手にして」。父を突き放した。

「3人の娘に、迷惑を掛けたくない」との真意を知ったのは、しばらくしてからだった。自身でしっかりと判断できるうちに「今後の過ごし方」を決めた長岡さん。「父らしい」と大濱さんは話す。

●看取る側の心得
長岡さんが入所当時のセントヒルズは、看取りについては「スタッフの思いや医療との連携など課題が多々あり、実践できずにいた」と施設長の長沼雄二さん(38)は話す。

16年春には、隣接する聖ヶ丘病院を運営する社会医療法人慈恵会(上原総一郎理事長)の中で、訪問診療を行っている聖ヶ丘セライトクリニック(洞爺湖町)の岡本拓也院長による訪問診療も始まり、看取りの態勢も徐々に構築。スタッフのスキルアップ

を図りながら「看取り」死ではない。どう生きるか、生きがいを感じてもらおう」として、看取る側の心得の浸透にも努めた。

また、「明確な窓口(長沼さん)となる大濱さんには電子メールを用いて、行事の写真や体調の変化などの様子を頻りに送信。そばで見守っているような態勢に近づけるように全力を注いだ。

「こつたやりとりの中で送られてきた大濱さんからの感謝のメール。長沼さんは「全職員のモチベーション保持にもつながった」と話す。

●日常ケアの延長
「胃のつ設置や、人工呼吸器を付けず、痛みを取って」。終末期を迎えた長岡さんの希望は、「身体が動くうちに、やりたいことをしたい」だった。

兄妹と会うために帯広への小旅行、菊の手入れと一時帰宅、職員との焼肉パーティー…など、願いをかなえてあげることが第一に、「セントヒルズのスタッフが丸ごと取り組んだ(長沼さん)という。家族と思つて温かく見守り、最期の時間を過ごす。セントヒルズでは、長岡さんが亡くなった後も4人を看取った。

また、「病状によって看取り困難な場合や、家族の意向が変わることもある(同)とした上で、セントヒルズへの入居者や家族については「意向確認の中で、8割弱がセントヒルズでの看取りを希望している(同)実情だ。

看護主任の基石一枝さん(45)は「ターミナルケアは

特別なケアでなく、日常のケアの延長線」と話す。「本人がどのような生活・最期を希望しているかを把握し、本人・家族・施設が、それぞれ悔いの残らないような関わりを持つことが重要だ」。スタッフは長岡さんの教え「どのように最期を生ききるか」を追求し、入居者との日々の関わりを大切にしている。

●希望をかなえる
昨年12月2日に伊達市で開かれたシンポジウム「胆振西部の地域包括ケア」で、大濱さんと基石さんはそれぞれの立場で、長岡さんから学んだことなどを発表した。大切な命から得た貴重な経験を、地域で共有してもらった。

「自分の中では、父が生きている時に十分に父の気持ち、生き方に寄り添ってあげることができた」と話す大濱さん。鎌倉市で訪問看護師として活動する一方で、医療・介護職による「ターミナルケアを考える会in鎌倉」の活動の中でも自身の経験を伝えている。

セントヒルズで最期を迎えた長岡さん(下)伊達

「西胆振地域の高齢者施設における看取りに関する実態調査報告書」によると、看取りに「対応する」と答えた計41施設のうち、割近くの施設が「希望者全てを看取った」としている。一方、看取りをできなかった理由については「入所(居)者の容体急変による医療機関への搬送」が半数近くを占めた。

看取りに対応する施設のうち「希望者の全てを看取った」としたのは29.4%。これに対して41.2%が「全く看取らなかった」と答えた。理由は「容体急変による医療機関への搬送」が48.3%で「途中で(家族の)意向が変わったから」が24



伊達市内で開かれたシンポジウムで、長岡さんから学んだことを話す(左から)大濱さん、基石さん=2017年12月2日

「希望者全て看取った」3割

また、「その他」は34.5%。その理由のうち半数は「対象者や希望者がいなかった」や「前例がない」など、過去に対応したことがない点を上げた。「別な疾病で入院した」や「在宅医療では疼痛緩和に限界がある」「施設での対応が十分(急だった)」とした施設もあった。

調査は、西胆振3市3町の高齢者施設85施設を対象に、室蘭保健所と西胆振地域在宅医療連携推進協議会が2014年度(平成26年度)に実施。計81施設から回答を得た(回答率95.3%)。

●希望をかなえる
昨年12月2日に伊達市で開かれたシンポジウム「胆振西部の地域包括ケア」で、大濱さんと基石さんはそれぞれの立場で、長岡さんから学んだことなどを発表した。大切な命から得た貴重な経験を、地域で共有してもらった。

「自分の中では、父が生きている時に十分に父の気持ち、生き方に寄り添ってあげることができた」と話す大濱さん。鎌倉市で訪問看護師として活動する一方で、医療・介護職による「ターミナルケアを考える会in鎌倉」の活動の中でも自身の経験を伝えている。

●希望をかなえる
昨年12月2日に伊達市で開かれたシンポジウム「胆振西部の地域包括ケア」で、大濱さんと基石さんはそれぞれの立場で、長岡さんから学んだことなどを発表した。大切な命から得た貴重な経験を、地域で共有してもらった。

「自分の中では、父が生きている時に十分に父の気持ち、生き方に寄り添ってあげることができた」と話す大濱さん。鎌倉市で訪問看護師として活動する一方で、医療・介護職による「ターミナルケアを考える会in鎌倉」の活動の中でも自身の経験を伝えている。

●希望をかなえる
昨年12月2日に伊達市で開かれたシンポジウム「胆振西部の地域包括ケア」で、大濱さんと基石さんはそれぞれの立場で、長岡さんから学んだことなどを発表した。大切な命から得た貴重な経験を、地域で共有してもらった。

「自分の中では、父が生きている時に十分に父の気持ち、生き方に寄り添ってあげることができた」と話す大濱さん。鎌倉市で訪問看護師として活動する一方で、医療・介護職による「ターミナルケアを考える会in鎌倉」の活動の中でも自身の経験を伝えている。

●希望をかなえる
昨年12月2日に伊達市で開かれたシンポジウム「胆振西部の地域包括ケア」で、大濱さんと基石さんはそれぞれの立場で、長岡さんから学んだことなどを発表した。大切な命から得た貴重な経験を、地域で共有してもらった。

「自分の中では、父が生きている時に十分に父の気持ち、生き方に寄り添ってあげることができた」と話す大濱さん。鎌倉市で訪問看護師として活動する一方で、医療・介護職による「ターミナルケアを考える会in鎌倉」の活動の中でも自身の経験を伝えている。

忙中閑

7市町のまちづくり
▼毎年一度、胆振中西部の市町長が出席するまちづくり座談会(室蘭民報社主催)を催している。多忙を極める人の日程調整は至難だ。例年秋口から開催日を探るが、017年度はとうとう越年

2月5日まですれ込んだ▼各自自治体「未来づくりと連携の強化」をテーマに今が旬の話題を提供いただいた。市長町長の話を聞くにつけ、それぞれが懸念に「わがまちおこし」と闘っている

を実感する▼白老町は民族共生象徴の20年開設へ町内整備を急ぐ。登別市温泉街施設の耐震化を促進、象徴空間PRと誘客を「西胆振全体の課題」と捉える▼室蘭市は6月の官能フェリー就航伊達市は食育センター稼働で新地平を。洞爺湖町は美しい景観のSNS発信に力を入れ、壮瞥町は子育て支援など人口流出の緩和を実現。豊浦町は再生可能エネルギーによる循環型地域づくりに挑戦だ▼東の白老から西の豊浦まで車で2時間時間足らず。よくもこれほど個性異なるまちができたものと感心する独自の古里づくりを競い切磋琢磨して成果と言える▼共通利益を追求する域連携の次のテーマは「象徴空間」だ観光のパイをどれだけ拡大できるか。携のギアをチェンジアップしたい。(文

「40年ほど前、看護師の道を進めてくれたのは父でした」と話す大濱さんが、自身の貴重な経験を伝える際に必ず訴えることがある。「最期まで、迷わず、本人の希望をかなえてあげることができた」と。

(松岡秀直)

2校教職員に大臣表彰 2
平昌冬季五輪 4、5、10、11
むろみんカルチャー 14

★BS・TV解説・小説 8面
★国内の政経・社会 4～6面
★釣り 7面
★スポーツ 10、11面
メールアドレス
info@muromin.co.jp

中部支社	0143(85)4530	日高支社	0146(22)6191
西部支社	0142(23)2103	札幌支社	011(24)2753
蘭東支社	0143(44)1130	東京支社	03(5250)8920

情報は支社・支局へ